

戦争をさせない  
Anti-War Committee of 1000  
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.27

(2015年7月8日号)

〒101-0063 東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

## ■「戦争法案」を葬ろう 7.2 院内集会

立憲フォーラムと戦争をさせない1000人委員会は7月2日、『戦争法案』を葬ろう 7.2 院内集会」を参議院議員会館で開催しました。

集会には、立憲フォーラム代表の近藤昭一議員（民主党）ら国会議員も多数参加し、国会審議で戦争法案の成立を阻止するために全力で闘う決意を表明しました。また、安保特別委員の大串博志議員（民主党）が審議の様子を報告し、「大臣の答弁は一致しない。法制局長官は的外れな例え話まで持ち出し、国民の理解は深まらない。具体的な法律の中身まで議論ができていない。マスコミに対する発言についてもっとプレッシャーをかけたい。7月6日には地方参考人質疑が埼玉と沖縄で行われる。与党からはそろそろ採決すべきだという声も聞こえるがとんでもない。何としても戦争法案の採決をさせないよう反対していく」と述べました。

続いて日弁連憲法問題対策本部副部長の伊藤真さんが「憲法と戦争立法～やっぱり憲法9条が戦争を止めている～」と題して講演しました。また、集会の最後に日本ペンクラブの篠田博之さんが、自民党のマスコミつぶし発言について抗議のアピールを行いました。



安保特別委員会の審議について報告した大串博志議員（参議院議員会館）



伊藤真さん（日弁連憲法問題対策本部副部長） 憲法は何のためにあるのかと子どもたちに聞かれることがある。以前は、民法や刑法に比べて憲法の必要性を説明するのは難しかった。しかし今は簡単だ。安倍さんみたいな人を縛るためにあるんだよ、と答えればいい。政府・与党は憲法の番人は最高裁だと言うが、本当は国民一人一人が番人だ。最後は国民の力で守らなければならない。安倍政権の手法はナチス政権とよく似ている。尖閣諸島が危ない、ミサイルが飛んで来るぞと国民を煽る。我々人間は不完全なのでどうしても乗せられてしまう。だから、我々が憲法によって国家に縛りをつける必要がある。日本を描いてみて、と子どもたちに言うと、みんな列島の形を描く。でもそれは国土でしかない。国家とは私たちが作り上げるものであって国土とイコールではない。

交戦権を否定した憲法9条2項は特に重要だ。これは外国に出て人を殺さないよ、ということ。だから今までの解釈は、日本が攻撃された場合だけ反撃させてくださいというものだった。必要最小限の実力行使である個別的自衛権と交戦権は全く別ものである。集団的自衛権を認めれば9条2項が空文化し、交戦権を認めたことと同じになってしまう。集団的自衛

権は、自衛の措置として広く武力行使を容認している。それも時の政府が総合的に判断して行使するという。この一言で何の限定もないことがわかる。安倍政権は安全保障環境が変わったというが、冷戦時代よりも日本が危険になったという事実に基づく説明はない。

現在審議中の国際平和支援法などは、わざわざ自分たちから戦争当事者になるために出かけて行くという法律だ。これらの支援活動に関する法律は武器使用のみを認め、武力行使は認めないことになっている。武器使用とは現場の自衛官が個人の判断で行うもので、武力行使とは閣議決定によって国家が判断して行うものだ。これは判断の主体が違うだけで、やっていることは同じだ。ただ9条2項があるので武器使用としか言えない。この区別があるのは日本だけだ。

安倍政権の手口は悪徳商法にそっくりで、都合の良い事しか言わない。不安にさせて脅す。重要なことはちょっとしか言わず、重要事項に気付かないようにしている。今私たちに必要なことは、この国をどんな国にしたいのか、どんな国で生きていきたいのか、私たち一人一人が考え覚悟を決めることだ。国は与えられるものではなく創り上げるもの。市民的連帯の力への確信をもって、何があっても声を上げ続けていくことが求められている。



篠田博之さん（日本ペンクラブ） この間のマスコミつぶし発言は、発言者が特異だったわけではなく安倍政権の意志が表に出てきたものだと思う。安倍さんはここ1、2年、マスコミに対して明らかな形で手を打ってきている。以前の朝日バッシングも、戦後の代表的なリベラル紙を抑えつける政治的な意図があったはずだ。NHK会長の靱井氏も彼だけが特異なキャラクターと思われているが、あらかじめ百田氏が経営委員に送り込まれていたように、ルールが敷かれていた。マスコミつぶし発言に対して特定秘密保護法の時よりもマスコミは強い抗議を表明している。その動きは地方紙にまで広まっている。しかしマスコミ全体が一致して抗議する力はなくなってきているのが現状だ。今はマスコミにとっても正念場なので、危機意識をもって対応することが求められている。日本ペンクラブもメディアと一緒にこの問題に取り組んでいきたい。

## ■7.2 戦争法案 反対 国会前連続 集会（第7回）

7月2日、戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、衆議院第二議員会館前で第7回目となる「戦争法案反対国会前連続集会」を開きました。今回は約1800人の市民らが参加し、国会会期延長反対や戦争



1800人の参加者を前に戦争法案廃案を訴える伊藤真さん（衆議院第二議員会館前）

法案の強行採決反対の声をあげました。また、多くの国会議員や弁護士も参加しました。

集会では、「戦争をさせない北海道委員会」の南部貴昭さんが、「色々な所で潮目が変わったという言葉は聞くが、私は変わったのではなく変えたのだと思う。全国各地の怒りを持った人々の努力の結果がこのような世論を作り出した」とアピールしました。また、浄土真宗本願寺派法善寺の山崎龍明さんは、「殺すな、殺させるな、そして殺しを認めるな。これが私たち仏教者の根本的な精神だ。それを単なる理想ではなく現実とするために歩んでいる者と





プラカードを掲げてシュプレヒコールを上げる参加者

して、原発、武器輸出、戦争法案といった安倍首相のすべてが認められない」と強く訴えました。日本カトリック正義と平和協議会の会長勝谷太治さんは、「今、日本全国すべてのカトリック教区が一致してこの法案に対して反対の意思を表明している。憲法が世界の現状に合わないから変えてしまおうというのはおかしい話だ。私たちは聖書の文言を変えず現実の方を聖書の理想に近づけようと努力する。同じように、この

世界の現状を憲法の理念に近づけるのが政治家の仕事ではないのか」と訴えました。

国会会期延長に伴い、この連続集会は9月末まで毎週木曜日に継続して行われる予定です。

## ■【地方参考人質疑】7.6 さいたま街頭宣伝活動

7月6日、衆議院安保法制特別委員会による地方参考人会が、那覇市とさいたま市で行われました。さいたま市では「戦争をさせない埼玉県1000人委員会」が、大宮駅西口と会場のパレスホテル前で、この地方参考人質疑に対応して戦争法案の廃案を求める街頭宣伝行動を行いました。大宮駅西口デッキでは、雨の中約100名が参加し、チラシ配布と署名活動を行いました。



「安倍内閣不支持上回る」の新聞を掲げる参加者（大宮駅西口）

参考人質疑が行われたパレスホテルの会場入口には、1000人委員会など法案に反対する100人以上の参加者が集まり、雨が降る中で法案反対のシュプレヒコールを上げました。

参考人質疑では、5人の学識経験者が意見陳述などを行いました。野党推薦の埼玉弁護士



大勢の警察が警備にあたり物々しい雰囲気の中会場入口

会会長・石河秀夫さんは、「集团的自衛権の行使を限定的と称しながら容認することは、憲法の解釈変更の限界を超えるものであり、違憲であることは明らかだ。法案が成立すれば、憲法の規定する平和主義の枠組みから外れる法律ができることを意味する」と述べました。同じく野党推薦の弁護士・落合洋司さんは、「限定的とはいえ集团的自衛権を行使できる解釈をしたいのならば、憲法改正をきちんと踏んでいかなければならない。憲法は最高



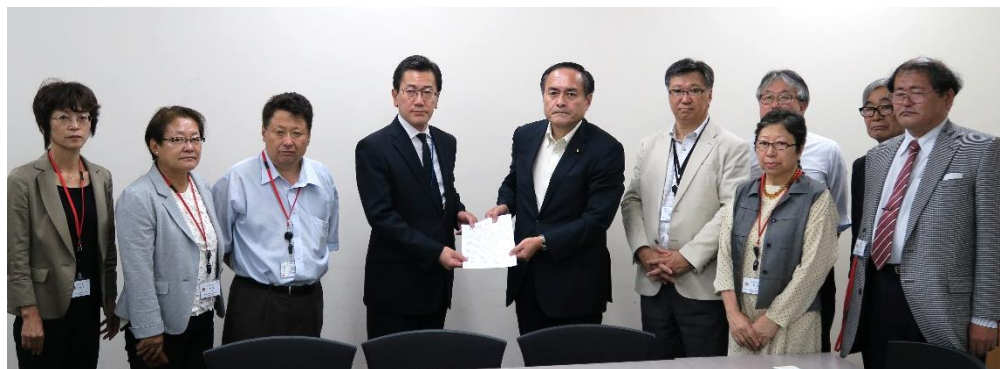
法規なので、安易に解釈を変えてしまうのは問題があると言わざるを得ない」と述べました。同じく野党推薦の弁護士・倉持麟太郎さんは、「この法制が実現すれば、武力行使の禁止や専守防衛など、憲法9条で導かれる基本原則のもとで、ぎりぎりのところで守ってきた合憲のラインをシームレスに踏み越えて、解釈の限界を超えた改憲手続きなき実質改憲が行われることになる」と述べました。



会場入口では雨の中で抗議行動が行われた（パレスホテル前）

一方、与党推薦の参考人からは、「自衛隊の活動の幅を広げることは、現在の安全保障環境のなかでは喫緊の課題だ」などとして、法案に賛成する意見が出されました。

## ■7.6 総がかり行動実行委員会 外務省要請行動



外務省の山上審議官に対して戦争法案の廃案を求める要請を行った（東京・霞ヶ関）

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会の3団体は、吉田忠智社民党党首と共に外務省に対して、違憲である戦争法案を撤回し、戦争法案を成立させないことを求める要請行動を行いました。対応した外務

省の山上信吾審議官（外務省・総合外交政策局 政策企画・国際安全保障担当大使）に対して、戦争法案を廃案にするよう強く求めるとともに、外務省は、武力ではなく平和的手段で外交問題を解決することを要請しました。

**吉田忠智社民党党首** 今日、埼玉と沖縄で地方公聴会が行われている。新聞の世論調査では、安倍政権になって初めて不支持が上回った。戦争法案反対が58%、成立すべきではない61%、説明不足が81%という結果が出ている。戦争法案への反対の声が日増しに高まっている。この状況の中で、戦争法案の強行採決をすべきではない。法案を断念して廃案にすべきだという思いで今日は要請に来た。外務大臣にしっかりと伝えてもらいたい。

**藤本泰成さん（戦争をさせない1000人委員会）** なぜ我々が反対しているかという、戦後70年一貫して平和主義の下で日本の外交政策が行われてきたからこそ、戦争によって殺し、殺されること



山上信吾審議官に対して戦争法案廃案を強く求めた（外務省）

い国を維持してきた。いまアメリカではプルトニウムを利用したテロの可能性も想定されている。これはアメリカの世界戦略の中で考えられていることだが、日本もアメリカに加担すればテロの標的になるだろう。外務省は、諸外国からプレッシャーを受けて外交政策を進めているのだろうと思う。しかし70年間の平和の原点を見据えて、集団的自衛権の行使を含む戦争法案ではなく、従来の平和外交の立場で外交政策を進めてもらいたい。私たち一人一人の命の問題として考えてきた。そのことを踏まえて要請の趣旨を受け止めてもらいたい。

**山上信吾審議官（外務省・総合外交政策局）** 政府の立場、ものの考え方は、これまでも国会等で縷々ご説明をした通りでございまして、あえてこの場で繰り返すことは致しません。先ほどのお話の中で、諸外国からプレッシャーを受けているのではないかというご指摘がありました。私どもとしては、今回の平和安全法制は、あくまでも日本の周辺、日本を取り巻く安全保障環境の厳しい変化を踏まえて、私ども自身が主体的に、どの国から何かをやれと言われたからやるということではなくて、当然主権国家たる日本国として必要なことをするという事です。そここのところはご理解を頂きたいと思えます。私どもは、日本国の国家公務員であることを享受して、あくまでも忠誠心は日の丸の下にあります。他国から云々という指図を受けてということはありません。日本国にとって良かれと思って行動しているという意味においては、皆さま方の仰ることと私どもの仕事ぶりとの間には、接点があるのではないかと考えております。

今の話の中で、一つは戦争の悲惨さということについては恐らく異論はないだろうと思えます。その戦争をどうやって防ぐかということについては色々と議論を深めていかなければならないと思えます。私どもが平和安全法制で考えているものは、あくまでも戦争をするための法案ではございません。戦争をしなくてよいようにする、戦争が起きないようにするという、抑止力の強化のための法制だと考えております。そのことはぜひご理解を頂きたいと思えます。もう一つは、政府が憲法9条を踏み越える、あるいは壊すという表現が使われていますが、あくまでも現在国会でお諮り（はか）りしている法案というのは、現行の憲法9条を元にして、その解釈でどこまでできるかということでお諮りしているものでございますので、ゆめゆめ私どもとして9条を壊すとかいう話ではないという点をご理解いただきたいと思えます。もちろんこの辺りは、今後さらに国会議員の先生方が国会審議で議論して頂くということになりますが、政府の立場から私どもの思いとしてご説明させて頂きました。

## ■みなさんからのメッセージ

— 「集団的自衛権」行使容認反対は、主婦層の中には浸透してきているのを感じます。率先して反対署名をしてくれる人が多くなっています。ただ、大学前で署名活動をしたのですが、若者はまだまだ無関心で、法案すら知らない人が多いと思えます。もっともっと多く街に出て広報活動をする必要があると思えました。何としても廃案にしましょう。（女性）

— なかなか声を上げられぬ私たちの気持ちを押しにくださる会の皆さまの活動に感謝です。どうぞ小さな都民の声を「戦争をしたい」と思っている愚かな議員に届けてください。（戦争反対の都民より）

戦争をさせない7.6さいたま街頭宣伝活動での署名活動（大宮駅西口）





## ■集会・活動スケジュール

7月8日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページ、または「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

- 7月 9日(木)～10日(金) 10時00分～17時00分 戦争法案廃案！強行採決反対！  
7.9-10 国会前座り込み行動  
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 9日(木) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 7.9 院内集会  
場 所：参議院議員会館1階 講堂  
講 師：樋口陽一さん(憲法学者, 立憲デモクラシーの会共同代表)  
主 催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム
- 7月 9日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第8回)  
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 13日(月) 8時30分～12時30分 戦争法案廃案！強行採決反対！衆議院特別委員会  
中央公聴会抗議行動  
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 14日(火) 18時30分～ 戦争法案反対！強行採決反対！7.14 大集会 ※集会後デモ  
場 所：日比谷野外音楽堂
- 7月 15日(水)～17日(金) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案！強行採決反対！  
国会前座り込み行動  
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 15日(水)～17日(金) 18時30分～ 戦争法案廃案！強行採決反対！  
国会正門前大集会 ※16日(木)は連続行動第9回を兼ねる  
場 所：国会正門前
- 7月 21日(火) 18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動
- 7月 23日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第10回)  
場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 26日(日) 14時00分～15時30分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」  
7.26 国会包囲行動  
場 所：国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 7月 28日(火) 18時30分～ 戦争法案反対！ 7.28 日比谷集会(仮称) ※集会後デモ  
場 所：日比谷野外音楽堂
- 7月 30日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第11回)  
場 所：衆議院第2議員会館前

### 「戦争をさせない全国署名2015」第3次締め切り：8月31日

昨年みなさんをお願いしてきた「戦争をさせない全国署名」は、合計257万264筆(追加提出分含む)集まりました。新たに呼びかけている「戦争をさせない全国署名2015」の第3次集約締め切りは8月31日(月)です。第3次集約分は9月中に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。